

大学等名：茨城大学

テーマ：テーマV（卒業時における質保証の取組の強化）

取組概要：IRと教育改善を結合した4階層質保証システムを構築し、卒業時の質保証として、学修成果の可視化と共有や「人材育成Annual Report」による社会発信を行う。また、本学が取り組んでいる各種地域連携事業と連動させて教育改革を加速する地域協働モデルを構築する。



茨城大学の教育目標：

「変化の激しい21世紀において社会の変化に主体的に対応し、自らの将来を切り拓くことのできる総合的人間力を育成すること」

身につけるべき5つの能力（茨城大学型基盤学力）①世界の俯瞰的理解、②専門分野の学力、③課題解決能力・コミュニケーション力、④社会人としての姿勢、⑤地域活性化志向

H28:アドミッションセンター設置

H27:アクティブ・ラーニング科目
教養：93% 専門：67%

H29～:クォーター制導入による
長期学外学修プログラム導入

測定したい能力に応じて様々な学修
成果の測定（可視化）を整備

入学前

一貫した学生データによるエンrollment・マネジメント

在学

卒業

学生生活
とデータ

新入生
調査

成績
データ

授業
アンケート

在学生調査
(学生生活、学び)

卒研ルーブリック
D・プレーダーチャート

卒業時調査
進路データ

企業調査
既卒者調査

学修成果の
可視化・共有

×

4階層質保証

人材育成Annual Report
(学修成果ファクトブック作成)

現状把握と制度設計、
リソース配分

全学の教学
マネジメント組織

- ・カリキュラム・マッピングによる体系化
- ・D・プレーダーチャートによる可視化
- ・卒業研究ルーブリックによる可視化
- ・科目ルーブリックもしくは評価区分ごとの成績評価基準策定と相互点検による可視化と適切な成績評価

学科等FDミーティングの結果の共有と
組織的対応、FD研修会

学部等

教育プログラム・レビュー

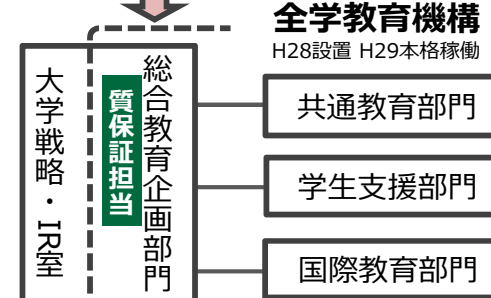
- ・教育目標に照らした学修成果の可視化による現状把握と改善
- ・数値データによる点検/議論（半期ごと）自己点検評価書の作成と外部評価（3年ごと）

学科・コース等
(カリキュラム)

ルーブリックを用いた学生指導、
成績評価

授業や教育改善状況の点検
(1年2回)

教員

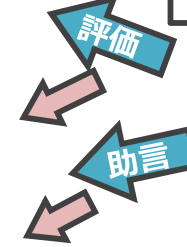


地域協働モデル

各種地域
連携事業

パートナー企業
自治体
地域コンソ加盟校
高等学校関係者

助言・評価委員会
≡ 地域ステークホルダー



達成目標

【事業の成果】	27年度 (実績値)	28年度 (目標値)	29年度 (目標値)	31年度 (目標値)
学生の授業外学修時間 (1週間当たり)	12時間	12.5時間	13時間	14時間
卒業生追跡調査の実施率 (調査回答者数/卒業生数)	3%	12%	14%	20%
6年卒業率 (標準修業年限×1.5年内卒業率)	93%	93.5%	94%	95%

期待される成果

1. 自律的かつ継続的な教育の質改善を実施し中期目標・計画を達成
2. 学生の学修成果把握とデータに基づくFDで学修成果が向上
3. 中規模大学における教育の質保証システムについて運用モデルを提示